

令和 6 年度
第 1 回 家庭教育支援連絡会 会議録

1 日時

令和 6 年 7 月 1 日（月）午後 3 時～4 時

2 場所

市役所職員会館 3 階 第 1 会議室

3 出席委員

権永委員長、青木副委員長、田中委員、中村委員、白石委員、中川委員
鍵崎委員、島津委員、岩本委員、東田委員、出口委員、木場委員

4 事務局

岡元課長、阪本係長、川上、西岡

5 会議次第

(1) 開会

- ① あいさつ
- ② 自己紹介
- ③ 委員長、副委員長選出（権永委員長・青木副委員長に決定）

(2) 案件

- ① 家庭教育学級について
- ② 寝屋川市家庭教育サポートチームについて
- ③ ねやがわ子どもフォーラムについて
- ④ その他・情報交換

会議録

1 開会

社会教育推進課阪本係長より連絡会の概要説明後、各委員の自己紹介を行うと共に、委員長、副委員長の選出を行った。

2 案件

(1) 家庭教育学級について

家庭教育講座

全 23 小学校で開催する。

講座の内容は、SNS など「家庭での情報モラル」が人気。既に 7 校で開催した。残る 16 校に関しても、インターネット関係の講座希望が多い中、児童の発達や心理状態に関する講座希望あり。

(2) 家庭教育支援者スキルアップ講習会

市内の家庭教育支援者、またこれから家庭教育支援者として活動する方を対象に、スキルアップを目的として実施。講習会受講者の中から、次年度の「家庭教育サポーター」の希望者を募り、活動していただくことを目的としている。時期は令和 7 年 1 月と考えているが、内容は検討中。

3 寝屋川市家庭教育サポートチームについて

家庭教育サポーターの活動実績について説明。

今年度は全 23 小学校に各 1 名、エリア担当として 1 名を任命し、新サポーターの配置校等を巡回していただいている。地域や関係機関と連携しながら、保護者の良き相談相手になり、家庭の健全化を図り、子どもの生活改善につながるよう活動していく。

4 ねやがわ子どもフォーラムについて

- ・開催概要の説明（開催日：令和 7 年 2 月 8 日（土）を予定）
- ・家庭教育支援連絡会委員の所属団体にも周知を依頼していく。

5 その他・情報交換

【民生委員・児童委員協議会】

主任児童委員は1人欠員の23人で頑張っており、こどもを守る課に来ていただき研修を行うなどの活動をしている。次の日曜日（7月7日）に寝屋川市駅で「こどもまんなかフェスタ」を行う予定であり、主任児童委員はバルーンアートを作り、子どもたちに配ろうと思っている。

【こども園】

こども園になり2ヶ月が経った。子どもたちの生活の様子について、幼稚園とはまた全然違った形で見させていただいている。支援を要する人たち、保護者、たくさん支援が必要な方々もいるので職員一丸となり、今、一生懸命頑張っているところ。

【こどもを守る課】

守る課は寝屋川市の虐待通告窓口になっている。通告があった際には家庭訪問等をさせていただいて対応する中で、親御さんが精神疾患の場合には市のサービスにつないだり、子育ての仕方が分からない場合は臨床心理士が発達相談や悩み相談を行った上で窓口を案内して継続的に支援したりしている。対応する件数は、年々増えている。

【子育て支援課】

未就学児が遊べる地域支援センターは12か所ある（直営2か所、民間保育園の支援センター5か所、概ね3歳未満の利用できる集いの広場が5か所）。ファミリーサポートセンター事業があり、コロナ禍以降は「小学生の子どもが登校の時間帯に保護者が早く仕事に行ってしまうので、見てほしい」「学童（留守家庭児童会）からのお迎えの間、見てほしい」「学校が終わってから習いごと連れて行ってもらい、習いごとから家に帰るところまでを見届けてほしい」という問い合わせが増えてきたと感じている。

多子減免もしており、兄弟がいれば二子目は無料である。

たくさんの人たちが活用したいということで申請や問い合わせがよくあり、「こどもを近所で見てもらえる人が少ない家庭が多い」と感じている。

【家庭教育サポーター】

- 以前は「未就学児の時期に外で遊んだ経験がほとんどない」という子が多く、先生たちが授業の合間に「外遊びしよう」とか、「その場で何か好きなことやっていいよ」と言った時に、遊び方が分からない子がちらほらいるなという印象だったが、それが改善されつつあり、嬉しく思っている。
- 欠席の報告がさくら連絡網にあるのは、すごく有難い。今はさくら連絡網で学校からの配信等を確認できるので、学校と連絡がとりやすい。登校渋りのお母さんには「さくらメールだけでも入力してくれると、様子が分かるのでお願いします」と伝えている。
- 機転の利かない子どもが前より増えたと感じる。昔は学校が終わってからは自分たちでこの後の行動をどうするか決めていたが、今は親の指示を素直に受け止め行動しているように感じる。各家庭のルールがあるので破るのもどうかと思うが、親とのせめぎ合いもあまりしていないのではと少し気になる。
- 様々な学校で勤務させてもらっているが、登校班で時間通りに登校できる等、地域や環境が違えば全く変わるということを感じている。各々の地域等に合わせサポーターの活動も変わっていかないといけないなと感じる。

【幼稚園】

公立幼稚園がこの4月から2園になり、通っている子どもたちは広範囲に広がってきている。その中でも海外の子どもたちもたくさんおり、保護者の方はその分悩みを抱えている方が多いなと感じる。毎日の送迎時に保護者の方から悩みを聞く中で感じるのは、コロナ禍で子育てをしてきた方々が「誰かに相談したくてもどうしたらいいのか分からない」「保護者同士で毎日顔合わせているが、関わりたくてもどのように声をかけていいのか分からない」という課題を抱えているということ。自分たちに何ができるのか探り探りしながらやっているところ。

【小学校】

朝の状況等は幼稚園や保育所と一緒に、その課題が小学校、中学校とずっと続いている状況。その分、家庭教育を支援する体制が整ってきたとも言えるが、アメリカでは赤ちゃんが生まれる前から支援する体制が始まる。日本はどちら

かといえば、一度親に頑張らせて、ギブアップやつまずいた時から支援がスタートする。そうではなく、事前に対処することでもっと安心安全に過ごせるのではないかと思っている。